

## 付編1 そうだづか 惣田塚古墳

### 位置 (第33図)

惣田塚古墳は日田市街地より南東の日田市琴平町 983 番地に所在する。古墳の北側には筑後川 (三隈川)、すぐ西側にはその支流である高瀬川が北流しており、古墳はその河岸段丘上に立地する。古墳の標高は約98mを測り、周辺は現在水田となっている。

### 現状 (第34図)

これまでこの古墳は市内にあっては石室が開口し内部の様子を窺い知ることができる数少ない古墳の一つであった。今回、惣田遺跡の発掘調査に伴い現状の墳丘測量を行った結果、これまで古墳の墳丘と考えられていた盛土の大半は、ボーリングを行ったところ拳大の河原石が積みまれていることがわかり、本来の墳丘は既に大半が失われ後世に現況のごとく盛られたと推定される。天井石は露出し、その上には墓石が残る。羨道部は破壊され、石室の東側は一部露出し、壊れた部分には円礫の河原石が積みまれている。

### 主体部 (第35図)

内部主体は主軸方位を  $N-62^{\circ}-E$  にとる両袖複室の横穴式石室である。石室内部には土砂が流入しており、少なくとも50cm以上の堆積があると思われる。このため、本来の床面の状



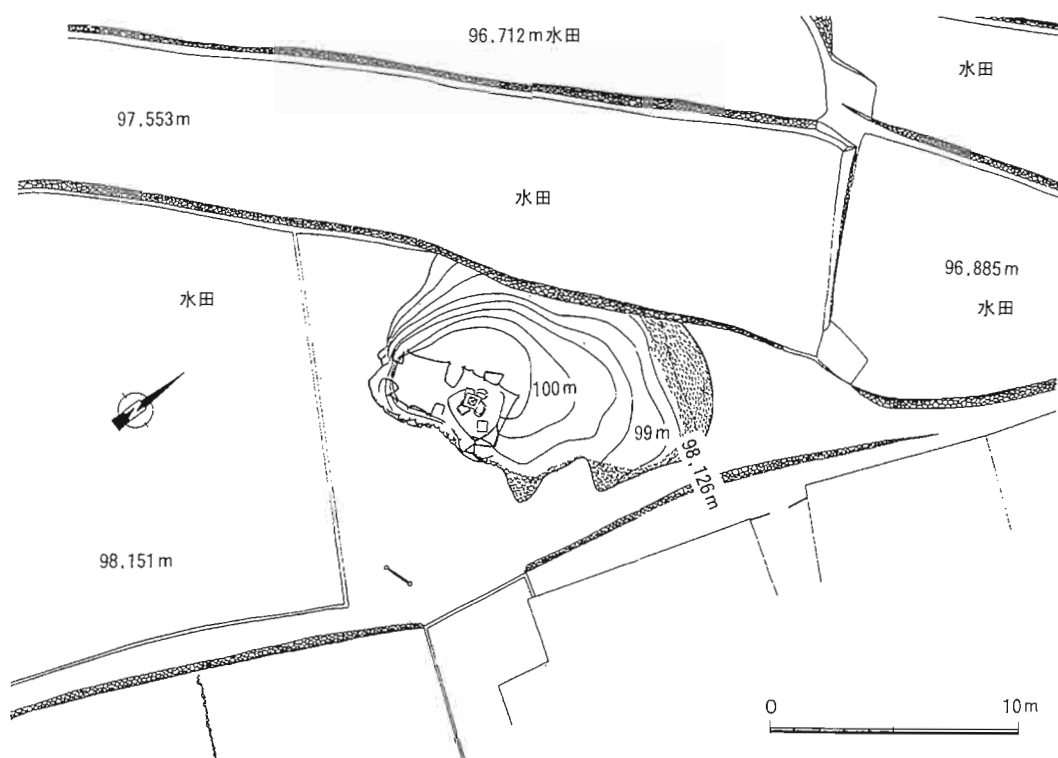
第33図 惣田塚古墳位置図 (1/5,000)

況は把握することはできず、また玄室右壁の一部は破壊を受けている。こうしたことを踏まえた石室の現状規模は、まず玄室は奥幅212cm、前幅200cm+ $\alpha$ 、左壁長233cm、右壁長210cm+ $\alpha$ を測る。前幅に対して奥幅がやや狭い方形に近い平面プランを呈す。奥壁には表面をほぼ平坦に加工した高さ150cm以上の鏡石を使用しており、内側に傾くよう据えている。その上部には平積みめの石を石棚状に突出させ、一枚の天井石を支えている。天井石までの高さは現状で175cmを測る。側壁は1ないし2枚の腰石を使って基底部を作り、その上に大きさの異なる石を持ち送りとなるよう積み上げ、それらの隙間を小さな平石で埋めている。

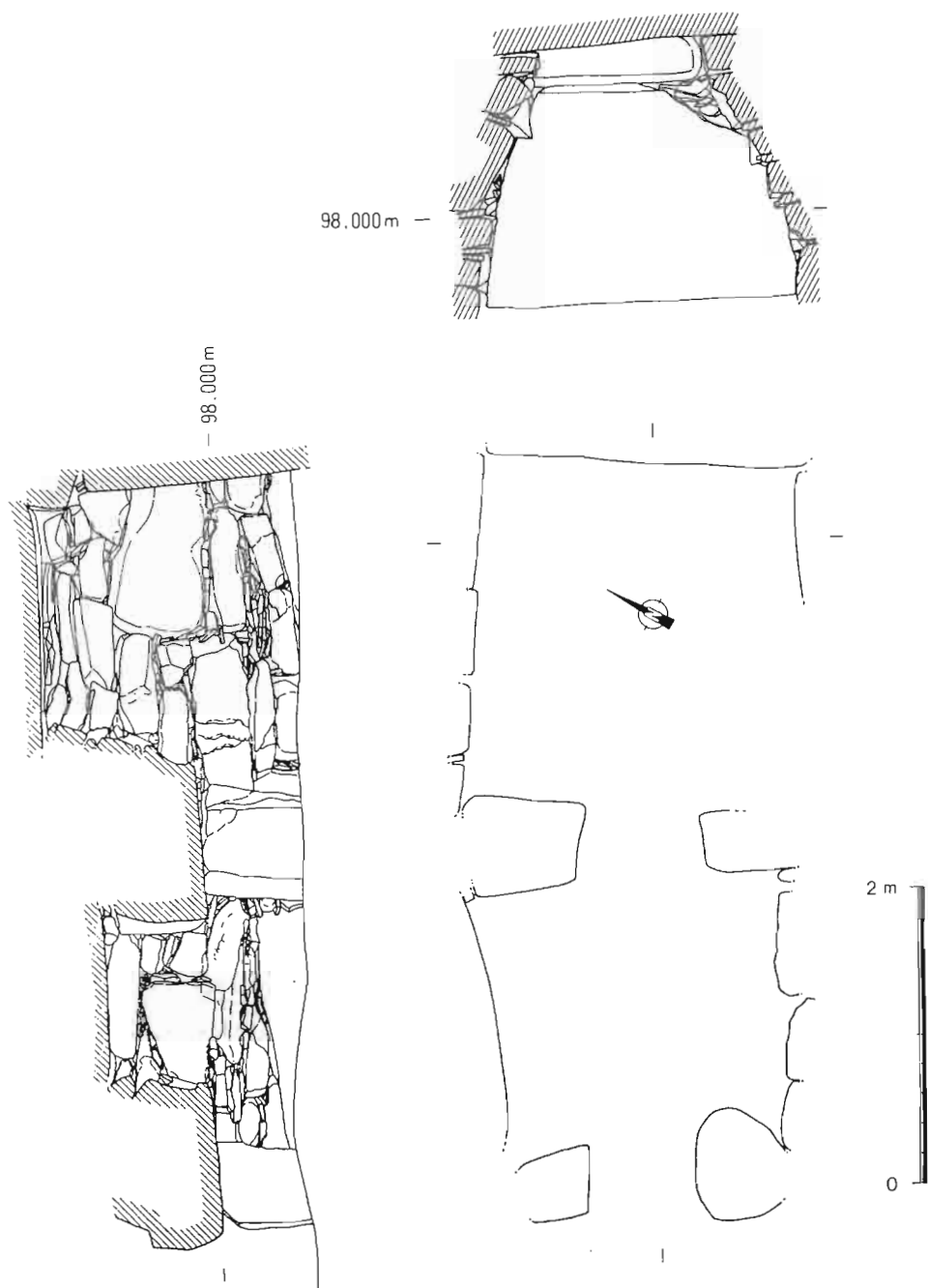
前室は奥幅211cm、前幅186cm、左右壁長とも183cmを測り、玄室と同様方形に近い平面プランを呈す。左壁には1枚の腰石からなる基底部があり、その上は大きさの異なる石を使い持ち送りとしている。右壁の基底部に腰石が使用されているかは不明であるが、左壁と同様の持ち送りがみられる。天井石は1枚石を使用しており、高さは現状で135cmを測る。

#### 古墳の年代

古墳の年代についてはこれまで本格的な調査が行われておらず、その年代ははっきりしない。しかし主体部の構造が複室の横穴式石室で、奥壁に1枚の鏡石を用い、その上部は平積みめの石を石棚状に突出させ、側壁は切石を持ち送るなどの特徴を持つ。このような例は市内ではランドヤ1号墳に見られ、類似している点から6世紀後半の年代が考えられそうである。



第34図 惣田塚古墳墳丘測量図(1/300)



第35図 惣田塚古墳石室実測図(1/50)



惣田塚古墳遠景  
(南方向より)



惣田塚古墳近景  
(南方向より)



惣田塚古墳近景  
(南東方向より)



惣田塚古墳近景  
(南東方向より)



惣田塚古墳  
正面写真



惣田塚古墳  
石室写真  
(前室入口より)